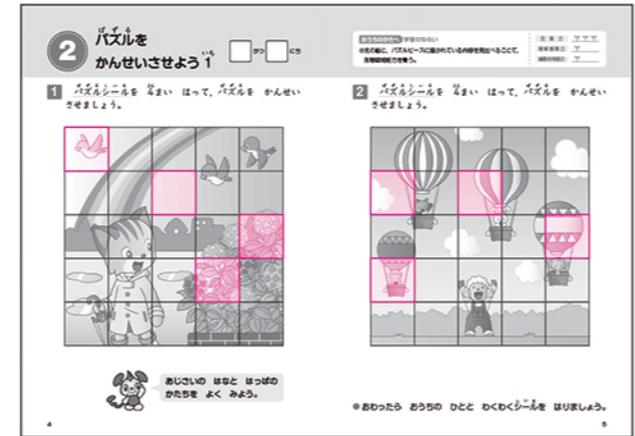


① 2枚の絵を見比べて、左右で違っている箇所を見つけ出す「間違探し」の問題です。漠然と絵を見比べても、間違いには気がつきにくいものです。まず、全体のイラストを見て、どんな場面が描かれているかを確認してから、細部の内容を左右で見比べるようお子さまにはたらきかけてみてください。

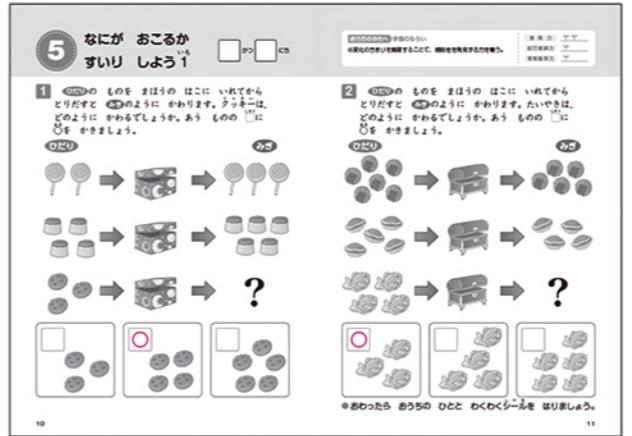
たとえばイラストの上部から着目するのであれば、「左の絵の木と右の絵の木から見てみようか。なにか違いはあるかな？」と、指で指示しながら見比べると、間違いを見発しやすくなります。同じようにして「雲」、「花」、「しきもの」と、視点を下げていきながら問題を解くよううながすとよいでしょう。



② 正しいパズルピース（パズルシール）を貼って、絵を完成させるジグソーパズルの問題です。形態認知能力を養います。シールは貼ってもはがせるので、貼ってみて形がつながらなかつたらはがして貼り直してもよいでしょう。

① 虹のかかった空と、アジサイの花が未完成です。空は虹の入り方が手がかりになります。アジサイは、となりあうアジサイや、茎と花の関係が不自然にならないかどうかを確認するよう、アドバイスするとよいでしょう。

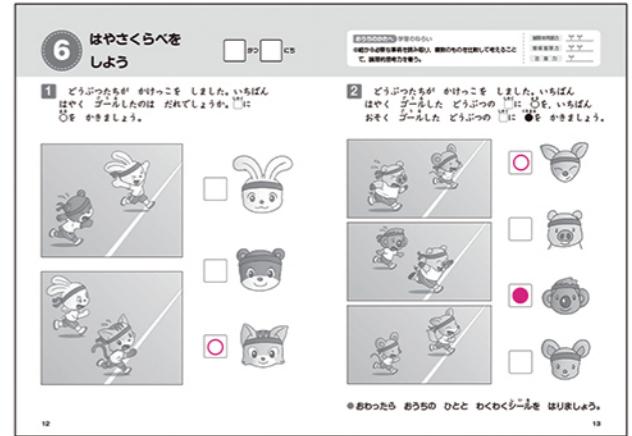
② 空にうかぶ、気球の問題です。縦縞もようの気球が2つあります。もう一つの太さが違います。迷ってしまう場合は、「こっちの気球のしまは、こっちと比べて同じ？ 違う？」など、お子さまがどこに着目すればよいか気がつけるように声をかけてあげてください。



⑤ 箱の中を通ったものに、どのような変化が生じたかを推理する問題です。規則性を発見する力を養います。⑤では数が変化する問題を扱っています。数に着目できていない場合は、「箱に入る前は何個かな？」箱から取り出したら何個かな？」と、箱に入れて取り出したものがどう変化したかお子さまに聞いてみるとよいでしょう。

① 箱に入れてから出すと、お菓子の数が1つ増えます。

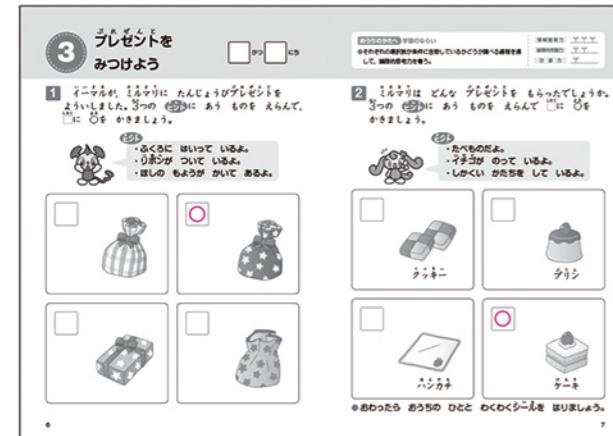
② 箱に入れてから出すと、お菓子の数が1つ減ります。



⑥ 複数の絵を見て、共通で登場するものや動物に注目します。その上で、絵の中で何が比較されていて、その順番はどうになっているのかを考える過程を通して論理的思考力を養います。

① 2枚の絵に共通して「ウサギ」が登場していることに気がつけるかどうかがポイントです。かけっこをするウサギについて、「クマより速いかな」「ネコより速いかな」とお子さまに声をかけ順番に確認しながら、3匹の速さを考えるとよいでしょう。

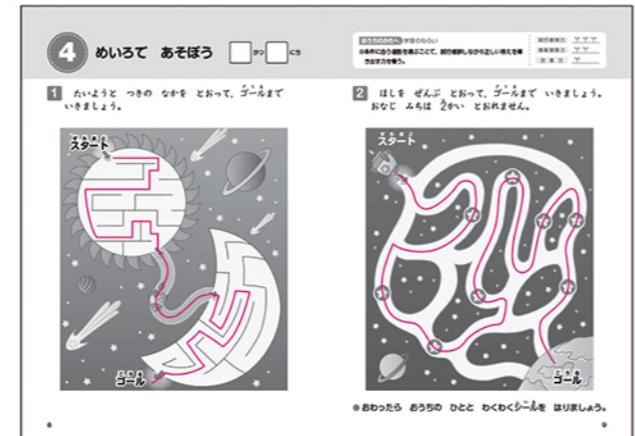
② 絵が3枚に増えます。3枚のうち2枚に登場する「ブタ」「ネズミ」に注目して、4匹の動物の足の速さを考えます。まずは上の2枚の絵で3匹の動物の速さを推理し、最後にネズミとキツネの速さを比べるとよいでしょう。



③ 条件を整理する力を養う問題です。ヒントをしっかりと読んで、全ての条件に合致するイラストを選びます。お子さまが迷っている場合は、ヒントを一つひとつ、丁寧に読みながら、「条件に合わないもの」に一つずつXをつけていくようお声がけいただくと考えやすくなるでしょう。

① 直方体の箱に包装紙のプレゼントを選択した場合も否定せず、お子さまなりの理由を尊重するようにしてください。

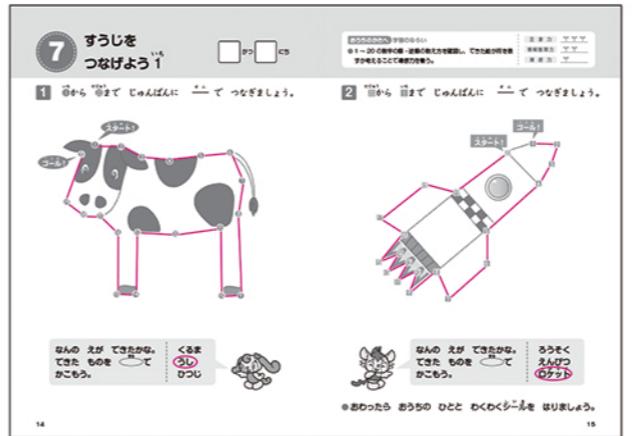
② ヒントを手がかりに、「食べ物で、イチゴが乗っているもの」をまず選びます。最後の条件は「しかくい かたち」です。プリンは円柱形、ケーキは長方体をしていることに気づかせてあげてください。



④ 迷路の形を認識して、ゴールを目指す迷路の問題です。何度もまちがえてもよいので、なれるまでは、ゆっくり確実に、正しい道を見つけ出すようにお子さまをうながすとよいでしょう。

① 「太陽」と「月」の迷路が2つつながった問題です。つまずいているときは、「太陽のゴールはどこかな？」と一つずつ解くようお声がけいただくとよいでしょう。

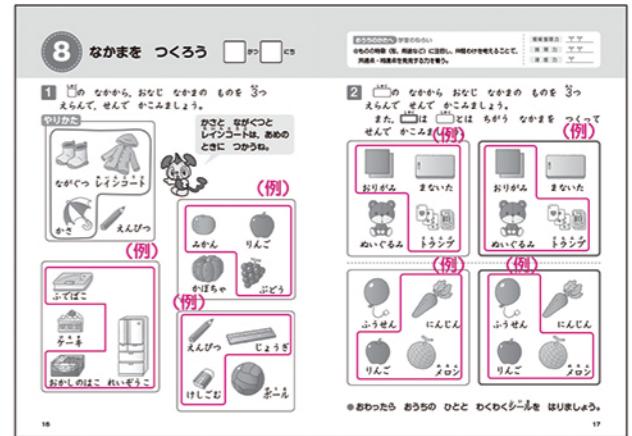
② 迷路を解くだけでなく、与えられた2つの条件をクリアする、やや難度が高い問題です。「同じ道を2回通れない」という条件は忘れがちなので、「同じ道を通れないのは難しいね」など、お声がけいただくとよいでしょう。



⑦ 数の順番への理解をうながす問題です。また、点つなぎでできた絵が何かを考えることで、連想力を養います。点つなぎの線がまっすぐに引けていても、ここでは問題ありません。数字をつなげていることをほめてあげましょう。

① 1から20までの数を、正順でつないでいきます。つまずいている場合は、数字を声に出して読みながら取り組むようお声がけください。

② 1から20までの数を、逆順でつないでいきます。この問題でも、数字を逆に声に出して読みながら取り組むとよいでしょう。



⑧ 複数のものを見比べて、その中に共通点・相違点を発見する力を養います。分類の基準は1つではありませんので、お子さまなりの理由で分類ができるれば正解としてください。

① 右上は「果物か、そうでないか」、左下は「四角い形をしているかどうか」、右下は「文房具かどうか」を分類の基準にした例です。

② 同じ選択肢の絵の中から、異なる分類の基準を見つけ出す問題です。上の絵では「四角い形をしているなかま」「遊ぶときに使うおもちゃ」の2つ、下の絵では「食べ物のなかま」「まるい物のなかま」の2つを想定しています。